

X

g 57-1

F
7-7

集 言 金

美文錦袋

をはり

娯ましむ、十、活潑勇壯の氣象は以て百事を企て得べし未だ以て百事をなし得べからず、

百八十六



No. 1751
IR g 57-1

3570

と知るべし、七、朝寝すべからず話の長座すべからず、八、小さき事に分別せよ大なる事に驚くべからず、九、九分は足らず十分は溢るゝと知るべし、十、分別は堪忍にあり、

ナポレオン、ゴールデン、セーリング

一、人に癖あるは自然の性苟も其害なければ強て之を矯殺する事なけれ、二、死期に臨んで殊更に死を厭ふは人間の常なり、三、輿論に隨ふて事をなせむ、何事かならざらん、蓋し輿論の向ふ所は天下に敵なし、四、人は猶ほ數字の如し其位置によつて其價を異にす、五、戦争に於て最も緊要の秘術は交通線を占有するにあり、六、軍事犯罪の裁決は嚴正と忽速を以すべし、七、戦争に於て舉重を決するは敵前にあり、之が準備をなすは夜間に在り、八、貨幣に汲々たる人は貨幣に依つて誘ふべし、九、美婦は目を樂ましめ良婦は心を

序
國語

吾東方。昇平之和希四隅。黎民鼓腹。以飽於治世。其樂矣。當是時也。山田捨校斗養一者。以筆爭曲鳴乎海內。夙學古疏紫爭也。精志研膈。採擷取捨。以

製新曲數闋。將傳同社矣。名
謂吾嬬爭曲焉。而其曲也。源本
雅樂。傍及蠻彝。操不徐不疾。
自是不言。妙也。而使聽者。至
樂融融。衷。積日蘊懷。如冰
泮然。而遂為一家。所謂介然

獨立者也。嗚呼。師之績。洋洋
乎大哉。而其曲數。凡及三十有餘。
生光。有光彩。粲然猶玄圃。穠
玉也。覩聽其曲者。相共情求。至謹
不休焉。於是乎輯以上諸李
東。為一小冊。將使人免謄寫。

勞也。且深閨婦女子。以之著巾箱。
則為朝暮唱曲之便耶。而至其
譜。刊曲亦傳於世。而使譜與曲兩
相持。而千載之後。不蠹不朽。無
乃山田氏之真面目乎。梓成而
之。覽者察諸。

文化己巳年秋七月

重元房吉謹識



目吹

弓八幡

布袋

夏やせ

めぐらあわせ

あまがくす

えねれ夷舟

ゑあづれ

竹いふ

青官曲

四季の艶

山櫻

かやみも

相生

曲あ

ひよづり

夏

ほやまく

ふ笑ふづく

あつまの花

ゑけうさ美

むぢみ

蓬莱

ぬまの峯

はやま八景

奈須形

住吉

千里秋桜曲

ゆくかく

江の崎曲

四季の段

小督曲

せ恨歌曲

葵上

鷦野

八重垣

追加

山登検授作

ちろの奥 春日清

初若菜

糸の意 西行

手まく

秋七景

なまく

吾嬬箋譜

弓八幡

山田檢校斗養一作

松あらき、いそよはやひる、ととのみ詠、をも
うぬ浦、代き、えかくお月のかづ乃、男山
ごすかすぢやなき、ふすよきく、君ばんぜい、
いのとおれ、神よあゆき、ともかくし、

布袋

意とよきがいた。かく
一もあきゆたれども、そぞろのあせり。
ちかくよ、思ひぬけやうやう。
くくく、そのゆさん乃、三重のおび
つらふと、むすよじきびわくぬ、
まの家、あがみあづみみざわか、こ
ちやきわ木端ぎや、なふまと、

夏や勢

あかあかの、あえまがちやうあふれや、
名てがすくまゆ人の、うやうやく、
きてあくまく、あおひ、
さけでら、あむむく、
むづよせよや、あんき、
うかゆまく、まよわく、かくく、
り、友をとくよく、なよく、ほふい
ちがく、あゆよ、うよあたかく、

なまばらのゆゑひを、わきれども、

心もあらずあらぬ

はかりあれど、きつたれど、意表、かく
あるなりと、もとよりあらざるものかなむ、むつ
きまつて、あらへり乃、うねりて、うなぎて
へ乃、なつて、あら、そんあらんまほく、
おとくだ、あいぬるす、かじ、よすらきせ
じやく、心もうあよせハ、志はくわびのと

ふとれぬころやひひやくがとれぬとが思ひ、
いつるをれゆく、おらよみとれゆく

あけがよ

侍くくくくくくくくくくくく
おとこいまやくと、ひとととがつひのむづる、
やくよふづくみよと、わくすと、そもく
せあふ、もちたまき、男とのあくよひ、わい
こよも、がよかよなまざざがせやの、やうある、

をあがめのとき、やあひじか、やあかくす。
やあかくすのよ、ひまもとはようひまもと
あがつみ、あがつみの、ながれの、あせきて
くわく、あまがくあ

名取萬舟

一歌うわねよ、あすもらひ、あそづきや万舟、
あくらみ、人のちよわの、名なれやとあす
まの山風よ、ほみざれがくひ、やるぎまよ

ばあぐぬ舟の、うきとよづのとよの、舟へりき
やう、ひまく、あくひ、いきとく、うはや
つ、あうつやは、まのうあくきや。

葉隱

そまはうき、せ乃く、あくひ、あくひはせ
乃くとく、乃く、あく、枕がんよあくじ、うや
は、やくは、づくみ、うふとく、がくよ、ゆよ、
せきく、かくく、あくひ、うきとく、せふ

だらんのまわらがアラハにはじかね
がめく、わきうらやア、あちのせれ、それを
あうちの神ナカム、おみぬをひるみよ、
あきちよの、ヤリヒに、もぎまく人間よ、地
だくし、あくさき、たづのものを、思ひ
ぞく、あくし、ちむなるややまふあくめ
木戻、わしへて、もとすみの、あけゆ
きもはたまく、なりゆくちとたぐ、わ

やまと、月がつて乃むれう

竹
說

素うれし、ながれのまゝ、かけうよおむ
のまがる、ゆきを、夜も、寝ぬるや、ア、
大仰き、まよひ、風にまぶれ
の、く、風を、せんふよの日暮、西
の、か、かわら、かわら、かわら、かわら、
うの、かわら、

春宮曲

さかでせふたるよ柳の葉れ、や、むく
はゆ、ゑおふよ、あまあかんざし、ちぢ月敷
乃、ゑりくやのまいひ神、かのやまとおわ
み、柄よぼくんよ名す、かをる、みやこをとへ
も、もよあづまうだる、やまと、やまと
も、もよあづまうだる、やまと、やまと
かありよ、せよ、みちの、まよ、ま風乃、

や、むや、志みけと、先く、あつき、思うたまわ、
かやね、いふ、ふ代よやぢよ、さつときせ、

四季の艶

まきみ、むさかにだち、あすぢの、えよ
くばく、ふよの、いづ、うけ、印の、む、
衣や、きき、舟へ、り、あまゆ、うき、とみ
は、あや、あや、よの月、底、み、うせ、ハ君
まく、あさ、たちまつも、だあく、み、さよ、一

來のからまくらをひきつても、やまのあたま
たれうるる、わざひなむ、そまきもひえく、
なまめ、それとくまみの、いだよもあら

山稱

ちどりも、まれゆきそ、ほそく、おのの下
ちとく、ちぎりやまのよしよちやく、おを
ハおさみ、山風せぬよすくもる、もせうご、
それまきのなじゆやまを、やまきと

やまく、あたまゆふと、やまきとれだたま
をづく、やかばく、

かまくら

かまくら、あれ一月は、まくらぬまくら、
らる、あたまきと、やもしやうと、がよふわしよ、よ
くにと、せきわたりて、ゆゑゆゑ、まくら、
ないく、れき、むすあれだ、やまくらはく、
かアまくら、まくらぬまくら、まくらがけ

あんよもんきや、こどやいあ、人まよひの、かね乃
あき、あくぬうれり、鶴あくそめの、

相生

ヨモギ、えすゆ、えぐわをあくまくの、ね乃
あくや、あげ、あひ、あくみんびの、えをうちか、
ト、わせの、もじ、いづとく、がよね、よの、かさ
く、とくとほ、ぎれ、なまくつ、みどり、き甚
の、あまらうた、もの、乃、うね、おとよこゑ

とかいや、なめし、つま、

曲水

さうばまと、かまと、みふ、なうて、思ひの、
の、は、ひの、ち、い、いた、ぬ、意、や、た、人、ま、歎
乃、が、ま、や、な、あ、ま、り、と、み、か、ん、じ、せ、ま
き、び、し、ゆ、む、れ、る、ま、く、か、い、だ、う、乃、ま、う、
か、わ、き、く、れ、ぬ、こ、き、む、ま、や、の、ふ、ら、の、ま、よ、
と、よ、う、う、な、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

於もう月あひ、さうもくほりまよつむ
思はまみの月のむらさきむかしの風

花妻

あれよなびかへつまふもまきまよ。秋
うきるまきまよせつゆのむちいみれ
く、秋のよがまきよがまきよ。じよよまきの月
はまよみづく、よよつまみ、まやま
まよ。わのぞきすむらわむかわのび

うねてや、さきの、おもとおつる、なみにさ
なちをさうふ、かくく、せふかくす、おも
あすり、下あすく、ひろよ出く、こがすとあらば、
うちひよぎのせまきれ、食べてかく、まあきを
掌す、まのゆすらむよ、秋のあづみ。

夏

あさゆ、やまの、みちがう、春と夏と
乃がきつむ、じよよおきわよ、おもとみの、うす

てあるほどが私やより人、まだよき
御心地、ゆゑあらば、まことに、右有雨
ふるなみちぬくそむ、ゆくお人の神のよ、
ゆくちどり風すゝの音がたまにま、ゆ
月見やるるゆゑとすむるたれぐく、され
えども、足をもつて、きえあわせし人、はされ
まじて、やきなさう、思ひおもひだ、うみうちま
つ浦のすみ、たむかれや、あまゆき

うみゆきやなうのみ、うね、

あづみ、あるゆきや、かとよるが、
あるゆき、月をすむを、せしむるといひゆごみ、
ゆるがおもせむくじゆくきの角と、おざく
ぬくやはくまろんやう、うみみたん、
かふくよ、やあゆよとく、ゆくらむあらせき
原の里ゆが、あゆうのちのちややみ

まあるめの川船よ、じまむも、まくまく、
かくさうすまゆるをかわし、いそげの、まゆ下
あまき、よよの、あやしむと、あくびし、ま
ほよが、ゆうた、ひまきのほんが、

千箱玉章

すまゆる、ねをむきみせろ、月を
ゆべの、ああよしめ、かつて、もとての、おゆく、まゆ
う、かくさうて、黒がる、まく、

と、はうやき、まく、いふ、いろ、つむのま、やまき
んが、なき、ぶく、さん、乃、まの、そ
やまなが、もの、きるの、み、まき、い、や
ぢ、めを、の、え、とい、い、かり、す、あ、か、く、
ぬ、せ、け、お、か、と、ま、よ、ち、う、ひ、も、み、い、う、
こ、ふ、ふ、う、ま、く、の、た、ね、と、ま、に、底、よ、ご、ち、方
あり、け、ふ、ま、ま、ま、ぬ、み、す、や、く、や、も、ろ、れ
ば、の、ま、ま、思、が、な、が、す、お、ま、ま、ま、ぐ、

さきがくよどみかくよ神うきくちんようちあ
よあううどがくちようとたなくへがくよみ
つまちくやくへみもながくもはよごと
のまちよみちのまくとておまづくへやよち
かくレトコグんとかくまくわくみよふ
えんむじじゆくみみぢやまきおみよふ
まいまくをひくとおれくまきまきやまと
か一ちくもめでくくに、ゑくすくまきや
銀

ちよせなまいろまよばんせふく、ちもく
めくまつさをも、れぞくよきみつきのれ
あつまれ花

よのくくくくくくくくくく
みあらうよくにぬるみ、もううごやみやく
よ、くくくひく、むううよほぞ、わくくもく、
くくくすく、むすくさわさくくくとゆきえ
くくくくくの、あけふよやまきのいよ、むくれ

まくあがむもんづく、衣のうと、袖下炎て、
カツレ、あらびれつ、あをやめうる
ひとア、あああはばの、ドニテア、
い、あちがえき、モトホシ、シテ、
あく、かたむあがひ、衣のうと、やひうれ
き、あくすよ、もじり、きわづる、もさーゆくも
ろき、せぶみや、あまくんぢ、けまし、ふせやち
よちきは、この、見ざくら、ほ、えさるえま

清代のそれ

花のかみ

うはきぢき、きのうみよ、まきく、うつむ
多、まきのうきよ、おきら月よれ、わくとくふ
人まううごと、あく、やううみ、くわく
のハ、もくとくのぬ、かまく、人目、まく、塵
まきいやよせきくたのあたかのうと、おまき
のむか、アドリ、よくのゆきのゆきのゆき

むよかみのまくらうかくぬちどりかくまめ。
きみわ代の、せぐるふまき、ゆひよまくらうかく
し。いづらうやく、人おもへあらたむ
え、す、あく、花のがくまくらうかく、はくや
くま、まくらうかく、まくらうかく、

花脣

赤がまとくまおふまき、やくを廻くおま
やまの、おもいろを、まくらうかく、まくらうかく

ひく日がをといつむほとゆじまくアキバセ
さくら、おもいろ、まもむくの、上野
秋草秋草、めぐれ、あやこまくら、やかわうふあまき、おく
山偶田川、よきやあす、いちく乃まくら、ゆまふ
もくごく、わく、まくらうかく、で、まくらうかく、
乃、ふたまく、まくらうかく、で、まくらうかく、
とおひすまく、もくらうかく、がくまくらうかく、
まくらうかく、あまき、まくらうかく、

まほんぐら心をやうじる。たまひのひとき、こ
がなみの、かの名くらむ。あやしむ、むきの、
けき、ぞくよする。さがるよかめの、おきん山す
まはあすかたきの、せうどくわみる。おきも
せくみの、せうとく、よもばくとく。

蓬莱

あのうち、むべかえりか、おひそみの、三ツ、すうだ。
いつまでも、かくぬをれの、もなづまふ色をなす
す、ちくらぬの、おわいりとれ、おぶるあら、え
をむねあふづみほり、をせむく、かゆふ
う、まがむす、かくつめいとくとほり
て、まみの、人びと、かくまく、たまよ
かくろの、あがみと、かくまく、たまよ
く、あやすまく、おくまく、じゆわく、

わづらひきうこうみをのぐもとくをもす
たほのみをやむ、意とやすけハ、めづらあみ、
おどよきことえ、もめいやべ、じゆくもよし、ち
ぬひ乃はくつくる、ごろのものもと、さくい
さくいと、じもうつけよ、だんとくまのうおをさくい
よかのぐくも、あかくになづく、ちゆくぬ、ぬい枕、
ぬきぬくちふ、ばねをすりとくおもい、ばくま、
えふ、そなまかはつまぬ、月日良かじあまよ

せふもとと、たづやへじづれむ、ゆせんと、なみ
は、もぐきとゆある、えぐひ、あかま、とくろゑぬ、
ねうぞハ千秋のこゑが、りやうり、れひ、
いくよろふ、ま、ちやうせん、おひせぬ、うざよ、
たちうる、まきとかざる、まきひ、みづ
かわらす、あけのもとくま。

芙蓉峯

まづらひきうこうみをのぐもとくをもす

と、神代のむすり、かくよみのじうきあ、おぢ方
も、うみのいづくら、あんざいがくら、いづく
りこまく、人せせよ、ふりもどさる、せ取の、おきま
ごうまめがよむじま、スズミシタる、かつての
まゆよ、かやくすらすれ秋よれ、月ふうもく、
かゆよと、かう、ごくやくちよやう、なげくや
まと、ゆじをわざれど、二八十く、かくよ、
を、かゆよかくする、まゆよ、ちゆくたせくを、

曹自漫

多きよくに、かくよみのじうきあ、あむん、たま
くとも、よこほおねぐらすよ、なだくがくく、
あまはこ女、ばくさうあく、うとくとひざりの、
かくよくつまき、おばくきくよ、かくよくく、
繰候
かくよくち、もくをくよ、げくをく、いのきよく
をく、あづかひそひの、もくよがまし、あくよ
もむか、おのゆ、かよせたまよ、おうさん、のゆを
あまゆくよくまく、おもくよくまよがけく

續

候

霓

裳

羽衣

曲

滿

はまねされ名も、ほんらひのやまへあふや
せな乃あゆみのまきのももあき、ふくわ
かなれともゆく一言也

はつまハ景

まをがど、たびおも、うかまわば
まむ、なぎらふうだりめし、らとき終
なぐれうめ山のをの^{尾上}乃かねば、アマいの、
むつまづきあ、あみよ、むすめのを、まく

せのふ、あはや、みよ、みよ、
あれとるふ、ほ、まめとびらく、^{高濱}たるをぬ
乃、ほ^晴、^嵐あ^一に、やうされ、もみよ^一かる、ほ
まちくと、ゆ^タ、^照むすみ、たまごの、ね、^{高砂}あ
せのうなもすく、^鷹人わいき、^{手柄山}まか^落
かまく、^鷹あは^{鷹山}さきよ、つまとす、ゆうきのま
ハ、三みやまくの、^{秋月}げつ、ちよとすもみく、
あぐすあく、秋のまく、あみ、も

やましはやく、ひよかなるがくらうき、ゆれ
あやしの神の雨、御
従^太たいほのはうかく、天
よみ、日の出鳥羽、帝
まよ、ありもよ、清涼殿
みとそ、自まご生ぬぐひのく、御脇
うやうれ、じまく、御脇
わくをくわく、じまく、御脇
なにあふきのむくよ、林く、御脇
れ、のまうい、御脇、御脇
あくよ、御脇、御脇、御脇
ゆの原よ、御脇、御脇、御脇
せうよ、御脇、御脇、御脇
あいを、御脇、御脇、御脇

住吉

一千事れども、黒きのくちよ、ふるむとて病がひ来
まふ。えはは、かきあひ、たびらか、ももくわら
に、よののそも、がまくよりうおきゆすまく、ほま
るく。あらま、あをまがはる、やめい
やふ。まよもうまのまのま。^清、
あひの、一かせば、かづ、ちぎりやむくぶく
け。ねりやめりん、とくとくと、まきよだく、まき

一 めみちきさゆの、神なれぞ、四季のなづか
みそめうよ、ゑみ、こよし、なんじいがちよ、
次へやうごひ、よみがれしぢ、てにはちぢ
ふ、とほく、たお、いもく、おゆ、とくよ
な、がて、あ、ふ、め、ぐ、あ、と、あ、う
ゑんよ、たふ、し、み、やびか、わ、それ、び
あ、き、く、と、あ、あ、く、ま、ま、く、そ、れ、ち
ば、え、の、あ、き、た、ひ、よ、む、ま、か、く、く、お、お、い

牛くやまくもか、うらりいつわよ、あまうされ
て、それうへほり月夜を、あおひよどりを
はなれ、思ひ出、あや秋、残のまゝせむる
思、あぐんの、のよをひ乃、くよたえで、
おひなす、ふみゆきのなまよ、花やあみ
ぢと、おときたときちつたる、ふきいしを、ま
とまく、おとじあき、きりしり月よいづく、
これくちる、桜の満て、ふたるねを、

かよきあやめのねがひわうや、四せすらの、ま
終く、なに以て代乃、かぎわなき、みちのき
あや、あゆ、

千葉の梅曲

常住
やまとふふうせす、れいへの、うき、うきとて
あぐぬみの、むろきゆくを、せまよる、
あらばくや、ちきやうじ、わいおこせ、よ
ゑをとくし、むくを、たゞ、のまおと向

天 淵 神

隨 意

まく、ああ、ほがみのまんと、ゆくよの神り、

かちややぐ、黒ひをもくぶねりひは、みのそ

ゑ、あきみどり、むちぶてまふく、東風も、まよ

まきうだの、かんわきとよよめは、みのまみのび、

しんふと秋月も、おもろが、わくらうれしまよが、

まのたぬまくまよ、ゆせんじまよ、えすへをくぬ、

みちうねはゆとみくらんがまゆのまく人

しらまくらまよ、かみわなまくまよ、まくのまくのやくす

あきうねんう、そむあひのまき、だんぢくよせ

うけ、かきうみ、うきち、いろのれ、花ふりれ、

おのづゑ、津神わねんでやをたまし、ましよまく、

あちうき、とじつよい、うす、やまくしぬ、いさむを、

あく人を、あくまの、おまかはやよ、と

そく、まみうるを、やすむれなづ、うみ

るをいや、あくよみはす

機き

おがさなる、おもむき、ゆかて、くわ
き山じうちすまか、秋のいはの、あきみどり、
あひる、さる、あやたぐも、みやこり、みち
らき、あひるやちと、さくらうせんぐのひ、
あこかく、さくまと、くまくら、かぢよははく
きを、ゆくさみ、かむく、ばき、はまよきえ、
こゑ、あい、ふき、あゆあわ、おもほ、あくじく、た
ちまき、な、あひはく、まくらねど、初まくま

きくもの、なづはくはく、くびりあくび、なづ
きぬ人やもの、なまくらぬと、おののくまく
ひく、ひく、もぎぬり、もきもきいも、いたづ
くふ、えみあさく、まくら、まくら、まくら、まくら
も、まくら、まくら、まくら、山の、やまは岩松を、とくと
ゆづ、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら
ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら、ゆづら

さきにまきみたちかくうて、風を吹くし。

江嶋曲

春もまきい、いまほは、久のなうごあひがるき
ゑもがうらうぜふあやめおひく、よくと
ふくじゆまんまんがざわなま、ちのじのうみの
それあくで、えうとあが、いややまく、あゆ
をはぶにのよみ、ゑも、およじぬ、ながれか歌、
ふ、山のまよと、まく、山をみの、まよまよ。

あんきへのいと庵、名よきくらむ、ぢうらふと
そ、ぢうすね、がく、く、せ、い、あんじんあよみ
なみあき、やまとやまとをりのよ、あよせよよせ
うちわく、さなれ、うふ、かしほ、まみが
そ、うそ、うそそそそそそそそそそそそ
あうそうふおひ、あひのよ、思ひおひ、ひ
なみ、まく、見、おのを、うみ、うみを、うみ、
も、まき、ひ、を、と、れ、おも、ハ、も、せ、ひ、ひ

蓬 莱

洞

そもづか、かどろひ、さくへやなひわいが、はる
さみ、せうびよ、あくはあいぬをすゞおけ
それ月日見、せうびがいと、ゆきみのみ乃、
いおせうび、うたふむす、あいのうみがみゆ
さしはあくアモウがたまるとんかの、じんと
ふ、ぢちまも一ねんぢつきと、なまくちうひを
みはのくち、むすめあとをやくせんとよいと
むはきやドつまド、あまが、山ねをふくを、

レキはまきふ、ばくまでよ、わしづ、復風樂
せふのへはを、奏そくもやか、おれりやせりや、あれ
しゆくめうとんぢさうの、ちく風のいと、なまく
ほみて、富貴白在青命長繁ゆめうちやうさうとん
をふを、まわらとだす、山ね乃、もろきめくみ
ぞ、あつざかくき、もろきめくみで、ありがこま、
山幸れや、春のゆうひきて、夕紅、いつとあいの

紀の路乃興四季歌

山幸れや、春のゆうひきて、夕紅、いつとあいの

かなよ、花をちまくも、ちまきをくわえ、いはくさんくわ、
めでたぐれ、さくやわくらどあ、くづゆと、おひよのそ
て、ともぢざくも、さくもとせんよく、くじくのう
ゑみをくへば、ちわくとくとあ、くわよあ、せき、
け、みすよ、チ、チッキ、タ、キ、さくとはくし、
ほやまくし、わくじ、山歌、いがくの、さくじ、
夏山れ、まくわとわくく、初なむづく、时々、
さくあらぬよ、こひあくよ、さもかの、まくし、
まく、旅せふまつのを、なぐやまくま、さくあい
戸を、ちとくと、ちとくとひまの、さくまくつ
び、エ、じんぞはくふくや、ふくの、あい、むつ、と
を、たまよまく、名をたちまわ、かたりほの
せく、うちねたかく、起、秋風よ、すく
まきを、わらわせたまわせ、おまよをみて、ほ
おはゆつね乃トまがを、おのびね、おむ
おち、おごと、おやほくわよ、さくよまく

よひへんきる。やのまのつじゆよ、かまへ、おくる
かく、たまへ、と、おみちだよ、いろりかなみ。
おはよ寝て、おつてみのいふなうれのあたひや
せよひ、おまけにくまがむせびぐる日ひ、ふくわゆ。
ある。ゆきもあら、あらむかくわざわざくわざれぬ法
ぎめうす。やのあやかと、やまくわやかなし、
むくわ。

小指曲

を、のむく、此山里とも、もひどくまんざりがあら
む、秋のこころすがさみの花も、さかへふむりのうき
いし、ふるきよのれ、月ふまう雲、まゆくへ尾をばぎ
よ、つねに、まもりや、まくまくをぎむくつむく、
まくねはまくと、せ國のまくわ御馬、たまう
く、やめおもとがみの、よぢだごみたづゆるむみ、
おきのまよたづくもぎくの、せんや花びくのあく
ぬふまほう一乃、よかきくやのひ、あぐのちむ、

あえきとしよ、さくまほんをもよのうすの松
うきふかよ、うよはまやくつまこひの、あよる
康よあくなどもむう、おやゆ、笛作や、あり
きぐ乃、まざしふむ、おをそく、とよよもよひよ、
はうせの、おみのか、をも戸、そくがまんの、
すう、歌
すうの、比
すうの、翼
海
すうの、調
すうの、小
すうの、替
すうの、局
すうの、翅
すうの、盤
すうの、想
すうの、夫
すうの、意
すうの、唱

おもふにほもなまく、むらしのくすりたておつり、む
かようくすりをきや、さくよかづく、えき
やあ代をちぎりの松乃木の木、

お恨歌曲

今うちもう、もうすく、いろをやぐへど、たまし

す。みのぶ、おりあぎとねやうかの、しまめが

楊家

くも、君よぬれやれ、あまくれの、おんいつ
くみ、あさくさく、およかくらにそん。

みあうちの、をやめ、三千の、ちやうあい、ひわ
きうの、喜ねる、ちやういあくも、あきくま
あうとたづの、みあいざも、けくちく、け
船よ、むう、なみの、まきな正ふ、やくよく、
に、まく、まき、ばろ、かくき、いろうとく、こうん
おくまく、ち下、なまく、めおわく、あやよも
きく、きく、りん乃、をうく、つれ、アミ、いつ

枝

雨

帶

玉

真

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

瓈

、あめをおじる、きのこをひるもあそれ、

おおもかげんごもれく、せんえんを、もくもく
いふふあきをぬく、アヤンのむく、おもひやす。
あらなはうせみやんぐか、なが、おう
よのをみむつづく、きえはつ、はあち
まううたはう、ふくくふくよふくもとがく、
おほくめきうや、ふうきによ、まのこちのうま
たきいやち、おもひあよへうちとけく、ねみく
き繋を、うけふよどりはくろひぬを、おきを、
うあ、がんせがまもひいろよみを、うるる
乃、むきじゆうき、かくせいひし、えんつきゆしが、
せき、ふきうみ、かくとき、ねぢう
かま、いふつと、おもしらひづれ、ありしも、
力 鶯破
空 裳
そよやけひやう、うのきくく、やすひご、かも、
乙女子がまれうご、うつも、をとめご、袖もちぬ
アリ、おもあつまく、やるゆくよ、君よハげ等、あ
ひそん、とわくが、まうどか、うまくもんがく。

立やむう、しやもか乃、あがむはも
月見、つまむ乃、ちゆへんやト、経カム
みや、よ、かく、家、ハ、あ、ま、ま、れ、文、月、乃、
な、あ、み、よ、じ、を、え、ど、も、く、ま、え、ほ、り、
そ、や、か、き、な、き、と、ま、ち、ま、か、あ、め、の、れ、
な、一、あ、ま、づ、ち、の、い、く、ま、ま、ゆ、も、は、ま、れ
と、き、あ、り、み、く、み、が、く、く、く、く、く、
た、え、ま、ま、く、ま、ま、小、れ、と、き、ま、ま、

卷上

三ツの車に、ぢやみち、くはあみのうちを、出
ぬくんえの、ゑ、やひるま、やゆりしなき
ふか、かくま、なま、はす、れをくま、めぐる
やむじかなく、おほのそと、あら、くま
のわが、とく、六、^趣_生四、^定_{芭蕉}泡沫の
ふぢやう、たまごと、くまうの、まのなまひ、まよ乃
花も、まゆのゆう、やうろ、うねう、おろ、れ

身のへきぶへちくみのなちをそく、わきれり
やぬ、まかがわかい、せめやあぐ、なまゆれり、
あづきゆふをんまうけ、たきまざあくられ、出
たやう、あはづうや、いまくら、ものびるま、
わきとく、月を、なまゆんおひな、月はるく、
駕、あうみ、あづやのゆみ、うもとづよ、えすわ、
を、うさんじあらのら乃、おとハツミ、あづ
多のまくのほまと、おれもすゞせまれ、ばよ

人モナリ、うよも、あくとく、あやうらうの
やうれ車に、ゆきいもよ、あをとく、青房
一もく乃、牛もなに、まのまご、よとく、き、やくと
あき終ふ、いありゆよ、かやうの、人よくよ、
ゆうて大かハズいつよ、やくじ、た、ばやび、津
をぬかわく、我をちや、ばぐんくうの、たまくよ、電光
うむ、駕も人よく、かくも、ばくも、あくよ、
にじうよくうの、れをれつて、日今あづく、

持みのむとよもされへあられ、かくとば、いふ
うきのとあ、おぢりめん、おきはふるえの多きて和
乃をんとやうむすり、これまはり、ふかくま、
上
まゆの、おれさん、春のあくみきよおはよせ、
せんとくの、まみぢの、秋のよし、月にたりすれを書
ふともはあやうやか、ああや、がとうへやれど
あさがむの、じまよまうすれ、おれやうひだいと
あ葉、つぶやくの、モモ聖、おとづび乃、
前
そゆ、思ひの、霧が、
きまでありれ、出でたる、おれいとまや、
すれ、なまけ、人へ、ああ、我人の、くめは、
ぞれ、かゑ、おと、おまよ、あわ、けをなすく、
ぞ、首の、まぶれ、みゆけ、つまきま、
うねり、やうれ、うで、がまひは、あ
みゆく、や、六条の、ふれ、おまよ、う、
なまうちの、まよ、い、いと、まのとま

只おほしめり身の力がまへばやい京の草木
うみががるすよどすくはまよちあくと
うきばとく立くわくわいあふく
くを乞むる今のはみがまししきん惠
のほまくへきをこがれねじあよめおわせ
ともうめりけりやあくらぼりのあくや、
人乃くみゆふくしてまきねふなみを、まよ
あいだくせさまよぎよきがくまき、次翁の

ちくのうめくよ、もろきみたゞ、ちくさん、か
らくよがくのくわあくや、おとやあく、ち
どくのくと、おとせきくびれきくよくせめ
一やまくじかてんもひとごおぢづかうじふ
しがうかがうかじだ、おれおれいはまくわ
そめのくわくよのうぐりやくくにたまく、
やれくまくのせがくくわく

ゆや

花前蝶舞柳上
かはせんかすよみやかにたる雪、つらむちやま
うごひもとぶ風、やあむ全氣飛もつらむい
尔志^隨かづくのあらそとせ、かなへかんえ
を風^隔ごそく、大^声おおれいりゆうとせ、せぬ
モ^水い^時ト乃^力か林のよもぎをもんじやうじやを
あり、ちよぎや^諸行^行すくじやうのよもぎやうじや
や、ごんごん^生なるの色、や飛^者せうとまのよ
ひつやう^必うドやもつぎばのせんあひ良^成
たがりあるよせわい、ほとけともとくまき
よのなうづやく、うべ^悲、取^{御名}わくをせば、名を
のあすきやくかつての、擣^護ばく、立歩くみゆ
雲、飛^舞やあく、初揚^應のきまとん林、いは原、
南とほくふがき^バ、大^也おう^ガみ、うへ
ゑ、ゆ^也ごんごん^うはくとまく、かくいおやド^護
まみのひすの山^乃うまくみぢみ、あをとすりみ、
秋又^スうももくほみたが、あめみだのやま。

春もあくまくはまゝ山もあれば、花もあ
花もあゆき、ふるきあさけを、人やひが、やまと
ト西すと、家やひごと、いりふゆや、しの内まほ
みのせなせじと、人やひが、まつり、る、うる村雨
く、そをちくまく、ひのゑよ、思えれ村雨よ、まの
ちやゆ、あらわめ、ひづれんやあ、春扇あふゆく
まみぐ、あまなあく、うの様ま、ちのきおま
人やひまく、ひまばなむたか、おぎぬね、え上
ア角び、ひまさんみの春よおき、なれ
あづまみ、もやちまんばよ、うきよ、あられあら、
もやく、いざかくすみぐ、うづまよすり、何、
あいとまどひや、ゆくわ、いわく、下り降ふて、
あくまくや、たふとあ、たまうんをん乃、萬利
いやうち、れまくわうや、わくやあく、がくく
まやまよ、あわせど、又わやまよ、の、かまき
た、まよおいとまく、よづけ乃、わくと、まく、

多事の餘やゝく、行ものやがくをとよ
あさうあせき代戸やしら、りく、おまかあ
み山々へと、とどけをとるつて、今きのとれはうぢ
されはス、あづかへいかつて、名づかくのゆく

八重垣

春立やがハ松に乃、わうみどり、やあああ先よ
あくほのなぎやよすすむあうち山荒れ、ものうのが
よきひの岬、無いのういの、なげれむ正氏

さちきの、とくまく、ああづきを、るるるるる
ぬるるるる、じきふく、じゆのき、るる
がさちきわらを、わらを、わらを、あそれくの、
みわく、わく、浦を、あまの、むかひの、えい、
名はいからを、とくたゞく、いこまはむくよ、
あはのめ乃、ばむを、わらが、つまが、う、志むあ
すよ、うの十方、崎小舟、のうも、とぞよ、か、刺
すなれ、やもみすれの、やもと聖事、いのあ

りやうやくもとよのうのひをす。ほりあいの、サヨヘ、
やまとぬひく、やまとく、ゆうぎうの、もや
どりちんみ手間、あほく、やまんじんく、は
きくも、まのせき山つひわくまく、サヨヘ、月を
乗ごろよ、こがくの、はまくとがくと、さく一月、
ちんみく、あかく、や、秋かくし、もづのほ原の、て
び風ひえんをむまぶの、み扇ろく、おゆゑを
もとじかねく、あがひ乃、ゆまきぢをづひぢ等、
りする。
人目土師里
やまと佐多浦の、雪のそとをぶとよざとま、
ちやちやちやちやかる、ふざきとあるのがやら
やまびの原がわとゆびをれび、たゞく、たぬれ、
みうそびてくらふの、ハ雪を出で、ハ重垣
つまゆふ、ハまかきはく、そのハ言がまとむ、
あかみのふとよ、がく十かアの、もよも
てんじんをねむる

四季せうかく乃そひなとす夏うき和の花ふ
あとのゆきふそばうりよもとふうみよまびのま
よもじもふ夏さむくすく一岁、衣手に、
かひとへあきわいたきものとる、くみあいせくふ、
くらの國、それハあやども、これも又、ナニふ
わる、ソテのね乃、其なうがまよ、さうてうれ、
調

追加

あらの輿

山登檢校松和一作

うは時よ、あふぎのうや、うへあと、なまく
まとも、おじきもじぶ、うりく、おきとてを、
まつち山、ほんをよ、あひさん、たまご、
あとす、ねぐらまやう、たかよ、ふれき
えまよ、ひゆの、月がなづく、の、ちか、意を、
さあおうちよ、おとくす、あくよふくわや、
ふくしん、やむろく、みちくさく、く、
くわの、ちだくがう、ふぢくあれ、たがく
ま房も、たまく聖も、かふまくうもきも、

春日清

竹の、あさりのみやくみ、ハキガミ、かす、の
煙、乃、さを、うればのも、うみ、をも、ちせ、
ゆきの、人乃、ながんぬ、あんちんだの、ふぢ、
みや、さと、あく、友ふ、がくく、うのね、さく、す
も、うく、こまの山や、やあ坂、あよよ、あそり、う
み、やの、童み、きんすみ、ごとき、舟の、竹は

うよかぎりす一葉、もみのねり、あゆの舟ろは、
神さくまへ言われぬよ、やく海の波よやれれ、
月のうぐいしのへ乃が、かくいと、ゑくやうぬめ
が、きぬかす、柳は一葉、らる柳の舟をだす、
あ、ざぶのそよごと、やめしわの柳よも、
く、やくろきみ、橋よもせよも、おまのあ、な
やす、もく、う、空、アんきのからし、ご輪の里、
よもちかす、みよづや、板原ふもと、お

あれす、え、雪よ、な、ざく、ほ、せ、もく、ゆ、
白ぬよ、た、もく、あ、ゆ、そ、は、よ、あ、ふ、か、ざ、
あ、あ、あ、と、そ、が、く、よ、つ、ぎ、や、ま、と、た、よ、そ、

初若菜

小松原、まのよひよ、も、れ、や、君、ぞ、ゆ、そ、て、那
のあ、や、と、よ、ま、わ、わ、の、む、そ、も、と、は、む、よ
ま、ご、か、ぎ、あ、も、ま、ま、や、く、乃、市、頭、よ、あ、よ、た、
ま、ん、ぞ、ら、く、や、か、く、う、お、ひ、き、だ、も、ま、

の袖、ぬり出でるも、みあさじよおへやくは、
ほきたまふ、よびそのえのんぐふ、ふもへる
が、ゆうぶきゆう、たまよ、がく、ゆうふ、ま
るよ、まんのたと、ねぐらをきつひ、すまと、
よもとほく、たまくをぞ、じやゆくは、
ゆすれ、か十二、十三乃、へとくをくよ、あ
ひのむれ、六段たて、人の室、ちゆるもやうず、
すめぐも、あらわい、あづよと、思づくもど
よ、かくし、曲もや井戸も、ちゆに、ぢう
おきく、うなぐも、あすやけやけのうみじん
づくもく、そめやを、わくき、橋の、ち松も、や
かく、だよ、いき、れく、わうれく、まみの波が下、
うるなか直衣の袖、あせと、うと、あせやれ、わ
づくも、えぐれす、まがくと、あくと、
絆れ、ほのあくと、じぐくがいくと、
わく、ふきのれ、もくすが、くるよみ、

女文家、やまともん、吉良家、信東庵乃
たとへかねといたやぬもか、行幸も
系の事

りふるむとく、かわなみあくま、ほんき、女
乃、つゆくよ、いみやべを、ちき、いき、じく
を、ゆちにじきじあくら、称をかみかくとけ
て、まかくもんがれく、やけの六くよ、じつ
じよばじふをやく、まめ、よだ、おくるがみ、

きよ、ちよかふうく深く、神のあめ、ふる、よび
くや西、ちんきんくの、さわす、かかと、じつ
のあけくそ、ひざ、じゆひくの、はまのとくよを

西行

やまとむづく、さまをの、まゆ、つまをみを
しをゆく、もき、いたゞく、おえ、ばく、あく、
あじ衣、かけり、あた、おとせんうく、く乃
ちゆ、袖をく、やほおせうよ、がく、み、と

一ああいもすよひとよひ、ち聖山、こゑ
あをみ、みちうてすくぬるいりを、
たゞのくく、うれ枕、まのまみすみをめ様、
うふもの、花乃みややまともぐたに、草木、あ
正き、みがくよる、まじて、おほえよ。柳うげ、

手枕

きなまつ、いの色音をねむて、これと
をあわせ、あくと、麻がひつばをとるが

ゆべ、秋をなせやうあらぬもぬれなましの
がぬせう、あぢよさくくじうやうやう
そんぞくんき、ちゆき、や、かとのすあらふ、ま
くに、むまびすくはゆの寝、まみてあつて、
あまくまく、あつまくまくねて、かぎ名
ずあをまれ、月の入山、ふとまざく

枕せま

ゆべのうちゆく、秋のまよがまつる。

いちきうす、づきやくぬ、をとこ一、さあひ
一き、龍^いんだうに、づきの時ときの、あけうけ、
ちぎりをおりあ、きちうよな、おちんの、や
正^まぐ、地^じ榆ゆ、桔^き梗梗、茶^茶苑えん、麦^む、
きもかうよしも、うびと、四よと二に、しはす、
の、もつれ、ふくと、あん、乃、花すれや
なぐこ

かくの、おちる形かたち、乃、ま枝えだを、あくと

ま、中なかや、くもよ、匂にお、か、やまと、もの、午
ま、が、おほき、まと、たぶい、あ、東ひがとも、い、と、
あ、の、な、が、ゆの、きよ、が、わい、け、あ、か、れ、
も、も、れ、う、ま、う、い、の、ゆ、ゆ、が、ま、あ、あ、
も、ゆ、し、も、ゆ、わ、そ、ゆ、や、じ、き、あ、も、つ、き、す
て、も、ゆ、り、か、わ、や、お、く、く、名、も、も、も、
乃、う、ま、よ、や、く、の、ほ、く、ぎ、れ、あ、け、く、わ、く、
ち、ぎ、り、も、ち、ん、に、も、ば、ひ、く、み、や、の、で、

いふべきあがま、あやめの手、とあるある、
の葉れかわはれぬ、たゞこぞき、かくぬやう
を、うけくらむ、あさりもくさき、病の様、

跋

筆の中絲珠をまし絲竹の
中絃あそ生て絃乐器品ある
中乐器乃道ある也、即ち人
人を和ひたり生す者生じ
生を能ひ人はまづる

は一ゆめとほくのをう
いたしゑよ山田檢校傳すま
精詳を漸一此業を承る
まじて植木も解すよ心
那木も白毛歌を心よ
人をすそにあひ
あらゆれや吾をあきらゆるよ
みそらあひてふくらむ
可うすは家の事新とせ
席もはりゆと眺め

花をひきと月

麻くさえいと人食

ト秋の風の涼みの

まきの紅葉も理

や。萬葉のともれか

うの木の葉をうきぼ

よとひよ初の紅葉の

名も口を次日をまわ

るおはよはまにや

うきよとあらわすよ

あらわすよとわしづ

おひりあす

文

ほのまづはゆあくわの

因、あるをとくふ一計の

めもよきを

情ろばく

指月友人

百泰

文化己巳年李穡



石雲 治山主人書



吾嬬筆譜一卷者、向^レ年先師山田於校、爲門弟子所令^ル板刻也。其後章句之内、先師所加鉛槧不少。今校正舊刻之誤謬、且吾雖憚^ル先師之遺靈、追加拙作之唱曲於卷尾、而更復令改版訖。自後追而有製作者、附屬于後、以傳後進之同社、則可爲當流唱歌之正本者也。

文政七年甲申春二月 山登檢校松和一誌

文化六己巳年七月閑版
文政七^{甲申}年二月再刻
天保十^{己亥}年八月改版
明治十五午年五月御届
明治十八年三月廿八日御届
同 年四月廿一日出版

元版主

東京府平氏

重

元

全

下谷

区西

黒門町

九

山

扇

田

豊

治

郎

日本橋五丁目

高

太

和

助

郎

大

和

助

郎

大

和

助

郎

讓受人

大坂府平氏

中川

仁三

郎

京橋區南傳馬町三丁自立書

醫人

大正平月

京師西南郊農業日三番

同前

中

十

二

三

四

醫人全

高

日本翻譯本

同前

木

田

立

恨

狼

示端主

東京府平

重

云

平

人

同日四月廿一日出發

手稿以傳後達之同

眼散大半三月共一日

本者也

眼散十五半

日

山登檢校松和一誌

天船十五半

日

及越十一甲申

年

二月再陝

文廿六日半子月開

日

山登檢校松和一誌

